

## 盤洲干潟(久津間海岸)の観察

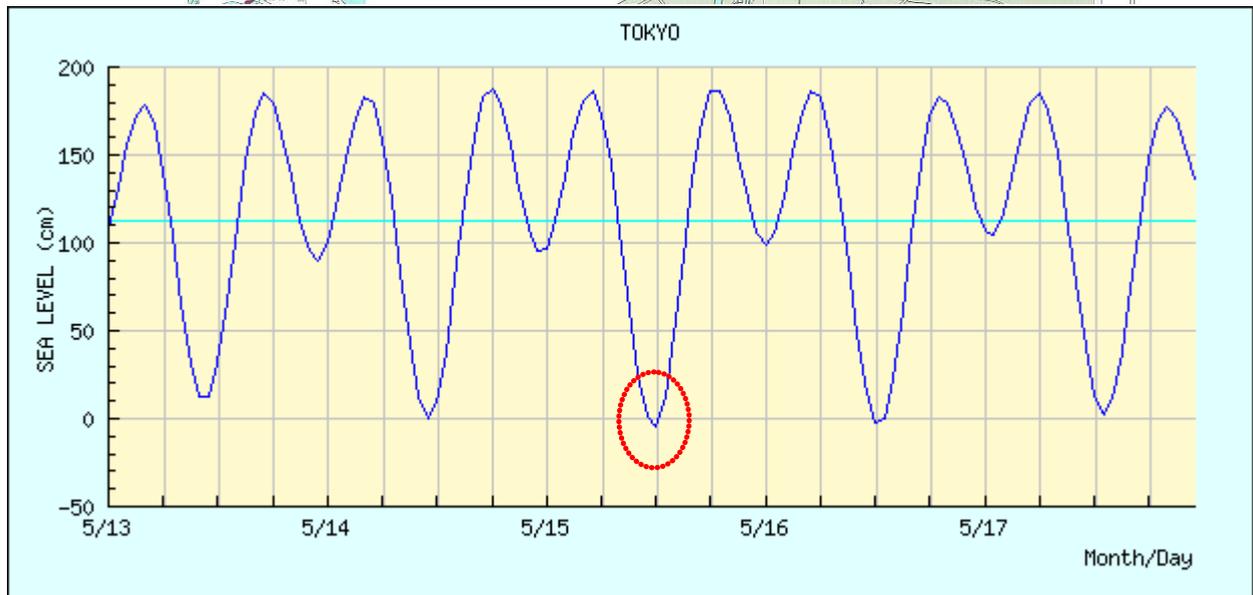
報告者：大野幸正(同行者 2 名)

日時：2010 年 5 月 15 日 (土) 11:00-13:00

場所：盤洲干潟 (久津間漁協の潮干狩り場)

観察したのは下図の赤い点線の範囲内で、久津間漁協が運営する潮干狩り場です。1400 円/人を支払い入場しました。これにより、アサリなどを 2kg まで持ち帰ることができます。

岸から沖方向に、熊手や手網を用いる他に、所々スコップで砂泥を掘り泥面下 10cm 位まで干潟生物を観察して、状況をデジタルカメラに記録しました。当日は、11:43 が最干潮時刻 (推算潮位 -4cm) で、晴れて穏やかな日でした。



推算潮位 (気象庁潮位表：東京)

### 【潮干狩り場】

小櫃川の河口の南側にある干潟です。歩いた限りでは、コアマモ、アナアオサなどの海藻の繁茂が見られず、底質は砂に泥が少々混じる程度で足がとられることのない歩きやすい干潟でした。

着いた時点で、はるか沖まで干上がっておりました。この干潟は、岸から最干潮時の水際まで1.3kmくらいはあると思います。底質は最も沖の水際まで嫌気状態\*とはなっていませんでした。

(※ 掘ると砂が黒っぽく、卵の腐ったようなにおいがする状態で生物に劣悪な環境)



### 【岸寄り】

干潟表面では、ウミニナ類やアラムシロガイが這いずりまわっており、水たまりにはマハゼの稚魚らしきものがありました。カニ穴があちらこちらにありましたが、彼らは姿を見せませんでした。砂泥質ではありますが、岸寄りには沖に比べて細かい粒子がやや多いような感じがしました。スコップで掘り返してみても生物は少なく、ゴカイなどの多毛類の仲間もさほどおりませんでした。

手網で干潟表面をこそげとると、アサリの稚貝の他、不明な巻貝の稚貝とエビジャコが獲れました。



不明な巻貝の稚貝

アサリの稚貝

【岸から 600-800m あたり】

所々探りながら歩きまわって、最もアサリが多かったのは干潟の中間地点よりも沖寄りでした。たぶん、岸から 600-800mのあたりです。泥面から 5cm 位潜っていたアサリを手にして見ると、細長い感じで模様が従来と異なるのが結構いました。このあたりはアサリが最も多く、バカガイ、シオフキガイ、カガミガイ、マテガイそしてハマグリが少々採れました。砂はきれいな感じで、多毛類や貝殻片等の混入は極めて少ない状態でした。



【干潟沖合部】

沖の方では、バカガイが多いのではないかと期待して行っただけですが、まったくの期待はずれでした。砂浜には、コアマモのような海藻類がなく、アナアオサ等の海藻類も見当たりませんでした。スコップを入れると、貝殻片が多量で、ハスノハカシパンの殻がゴロゴロと出てきました。これでは二枚貝が潜りにくいだらうなと感じました。スゴカイイソメやツバサゴカイなどの干潟沖合部にいる多毛類の棲管も全くと言ってよいほど見られませんでした。

